

体育指導資料の実態調査

土 屋 満 美

まえがき

旧制大学においては体育，スポーツは課外運動として一部の学生に愛好されたに過ぎなかった。しかるに新制大学においては四年制大学で4単位，短期大学で2単位を修得しなければならない必修科目にまでに進展したのである。

これには二つの目的がある。

一つは心身発達の最高限度に達している学生が体育の必要を自覚し，自主的に各種の体育方法をもって鍛錬し，トレーニングすることである。

もう一つは，学生が卒業後一般社会人となった時，社会の中堅人物となり，各方面の指導的立場に立たされるからである。

新制大学発足してまさに20年になろうとしているが，大学の一般体育については，体育の内容，指導方法，等について多くの未解決の問題が残されている。

画一的集団指導から個別的，班別的指導に，教師中心から学習中心に，命令的指導から自主的，発動的指導に，課外種目から正課種目への延長等もその一例である。

体育指導において最も重要なことは，指導の対象となる学生の体力，健康の格差，体育スポーツに対する関心，興味の如何を早急に把握することである。この観点から今回の実態調査を実施した所以である。

本調査は私の独創的立案で未だ理想的なものではない。今後修正，補足すべき箇所も多多あると思う。

本調査が大学の体育指導者各位に対して何等かの参考になる点があれば幸甚のいたりである。

調査票について

本調査は昭和41年度新入生全員に始めての試みとして実施した。(第A表)

翌42年度第2回を多少修正，補足して実施した。(第B表)したがって本調査に関する統計は2ヶ年間の実施結果をまとめたものである。

記入上の注意と所感

- 1 本調査の目的を詳細に説明し，決して虚偽を書かないこと。
- 2 4月の最初の体育時間に記入せしめたこと。
- 3 各学級共1人の欠席者なく全員調査を受けたこと。
- 4 全員が入学当方で真面目に真実を記入したように感じたこと。

(第A表)

○ ○
体育指導の参考資料調査票 1966.4調

下記事項は体育運動の合理的指導をするための参考資料ですから真実をありのまま記入しなさい。

	科	年	組	番	(よりかな) 氏名
出身地					
出身高校					
入学したら通学は 自宅 間借 下宿 学寮					
1	高校時代対外試合に出場した競技種目				回数
2	高校時代校内試合に選手として出場した競技種目				
3	特に優秀と思う自己の競技種目				
4	大学に入学したら特にどんな競技種目を練習したいか				
5	自分が特に好きな競技種目				
	見て好きな競技				
	自分がやって好きな競技				
6	水泳において何米位自由に何にも持たずに泳げるか				米位 泳げない
	水におぼれかけている人を見て飛び込んで助ける自信があるか				ある ない
7	月経は正常にあるか				
	ある ない (こういうように正常でない)				
8	月経の始まる前後又は月経中心身に異状はないか				
	ない ある (こういうようにある)				
9	月経中				
	a 相当強い運動をしても異状ない				
	b 軽度の運動なら異状ない				
	c 軽度の運動でもこういうように異状がある				
	()				
10	自転車に自由に乗れるか		乗れる		乗れない
11	自動車の免許状を持っているか		持っている		持っていない

(第B表)

○ ○
体育指導の参考資料調査票 1967.4 調

下記事項は体育指導の合理的指導をするための参考資料ですから、真実をありのまま記入
しなさい。

科 年 組 番 氏名 (ふりがな)

出身地

出身高校

入学したら通学は 自宅 { 清武 宮崎 その他 } 間借 { 清武 宮崎 その他 } 下宿 { 清武 宮崎 その他 } 学寮

- 1 高校時代対外試合に出場した競技種目, 成績, 回数
県対
その他
- 2 高校時代校内試合に選手として出場した競技種目
- 3 自分が運動して好きな競技種目
- 4 大学に入学したら特に練習したい競技種目
- 5 高校時代, 学友会, その他の役員になった役名
- 6 水泳において何米位自由に何も持たずに泳げるか 米位 泳げない
- 7 盲腸の手術をしたか
しない した (年前に 回)
- 8 自分の持病
ない ある ()
- 9 月経は正常にあるか
ある ない (とういうように正常でない)
- 10 月経の初まる前後又は月経中心身に異状はないか
ない ある (とういうようにある)
- 11 月経中
a 相当強い運動をしても異状ない
b 軽度の運動なら異常ない
c 軽度の運動でもこんなように異状がある ()
- 12 自転車に自由に乘れるか 乘れる 乘れない
- 13 自動車の免許状を持っているか 有 無

調査の統計

出身地について

出身地を海と山との両地区に分けたのは水泳の上手、下手と深い関係があると考えたからである。

海とは水泳の出来る海、川、池、プール等が生れた家より片道約4 km以内の処にある場合で山はこれの反対である。

最近プールを常設する学校が多くなったが、本学生の小学校在学中は未だ少なかった。

女子は小学校時代まで水にたしむ。中学校、高等学校と高学年に進むにつれて水泳を行うことを好まない。まして大学生になると一層その感を強くする。

出身高校の県別について

高校時代においてどの程度体育、スポーツを愛好しているか、又如何なる競技種目が普及、徹底しているか、その度合が推測されるので県内と県外に分けてみた。

尚、県内を各学校別に、県外を各府県別に区別すれば一層この点が明確になると思うが調査される学生数が少ないのと、あまりに複雑になるのでこの度は省略した。

統計上 保育科2年A組は保2A

“ B組は “B

“ C組は “C

国文科2年 は国2

保育科1年A組は保1A

“ B組は “B

“ C組は “C

国文科1年 は国1

初等教育科1年 は初1

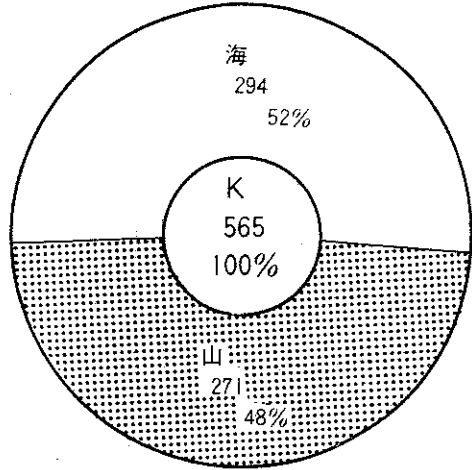
K……調査を受け調査票を提出した学生数の略号

出身地と出身高等学校

要項 K クラス	出身地		出身高校		
	海	山	県内	県外	
保A ₂	55人	25人	30人	48人	7人
保B ₂	55	29	26	52	3
保C ₂	56	29	27	49	7
国 ₂	97	45	52	89	8
保A ₁	52	31	21	47	5
保B ₁	52	25	27	48	4
保C ₁	51	24	27	44	7
国 ₁	59	36	23	45	14
初 ₁	88	50	38	77	11
計	565	294	271	499	66

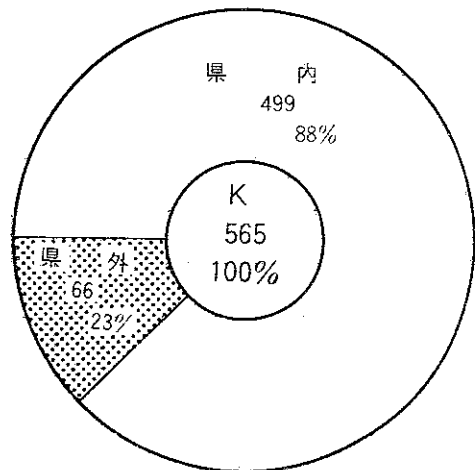
第1表

出身地



第2表

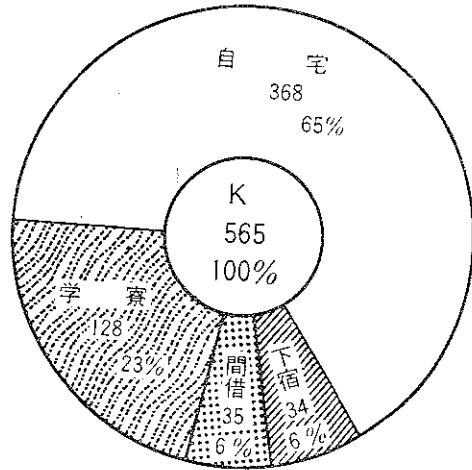
出身高校



入学後の通学場所

クラス	要項 場所 K	入学後の通学場所			
		自宅	間借	下宿	学寮
保A ₂	55	34	3	3	15
保B ₂	55	39	5	2	9
保C ₂	56	35	3	2	16
国 ₂	97	58	6	10	23
保A ₁	52	35	2	3	12
保B ₁	52	36	5	1	10
保C ₁	51	33	0	4	14
国 ₁	59	43	6	3	7
初 ₁	88	55	5	6	22
計	565	368	35	34	128

第3表 入学後の通学場所



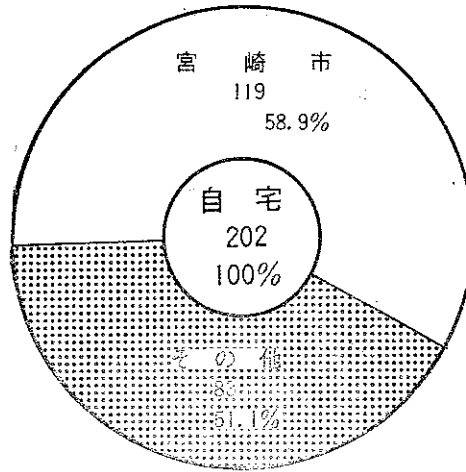
大学入学後の通学場所は課外運動に関係が多い。特に九州地区大学体育大会その他対外試合に選手を決定する場合の大きい条件となる。

自宅通学が過半数以上にあることが注目される（第3表）。自宅通学も宮崎市内が多い（第4表）。

自宅よりの通学内訳

クラス	自宅数	宮崎	都城	清武	佐土原	西都	国富	田野	高鍋	都農	三股	日向	川南	新富	美々津	日南	高城	山田	高岡	山之口	三納	木城
保A ₂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
保B ₂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
保C ₂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国 ₂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
保A ₁	35	17	4	2	2	1	2	2	1	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
保B ₁	36	22	5	0	2	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0
保C ₁	33	22	1	1	0	1	2	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
国 ₁	43	33	2	0	0	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
初 ₁	55	25	4	3	3	4	1	1	1	1	0	1	2	3	0	1	0	2	1	1	0	1
計	202	119	16	6	7	7	7	5	5	5	3	2	3	3	2	3	2	2	2	1	1	1

第4表 自宅よりの通学内訳



42年度に初めて通学場所を詳細に記入するようにした。

間借、下宿の内訳

クラス	場所 間借 下宿	宮	都	清	佐	西	国	田	高	都	三	日	川	新	美	日	高	山	高	山	三	木
		崎	城	武	土	都	富	野	鍋	農	股	向	南	富	津	南	城	田	岡	之	納	城
保A ₁	間借	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	下宿	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
保B ₁	間借	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	下宿	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
保C ₁	間借	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	下宿	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
国 ₁	間借	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	下宿	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
初 ₁	間借	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	下宿	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
計	間借	8	2	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
	下宿	11	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17

自宅通学にしても、間借や下宿も宮崎市内が多い。

1 高校時代対外試合に出場した競技種目

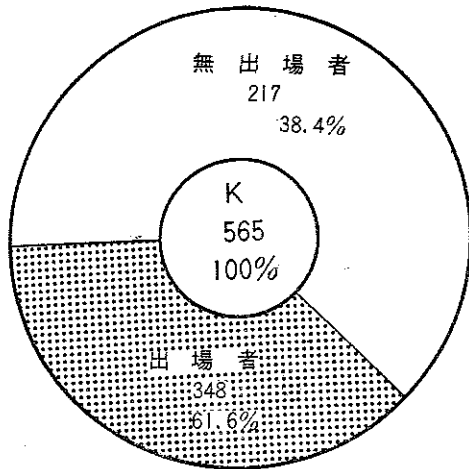
クラス	種目 K	陸上競技	体操競技	ダンス	バレーボ	バスケット	ソフト	ハンドボ	テニス	卓球	水泳	弓道	剣道	山岳	無出場数
		保A ₂	55	2	—	—	2	1	—	—	1	1	—	1	—
保B ₂	55	—	—	—	2	—	—	1	—	—	—	1	—	—	51
保C ₂	56	1	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	53
国 ₂	97	1	—	—	2	1	1	—	1	—	—	—	—	—	91
保A ₁	52	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	—	—	1	45
保B ₁	52	—	—	—	2	1	—	—	1	1	1	—	—	1	47
保C ₁	51	2	1	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	46
国 ₁	59	—	1	—	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	55
初 ₁	88	1	—	1	5	—	2	—	—	1	1	—	1	1	75
計	565	7	2	1	17	4	4	2	5	4	3	2	1	3	510 55

高校時代の女子スポーツとしては、バレーボールが盛んであることが想像される。1人で2種目出場している学生もある。対外試合は県体とインターハイが多い。対外試合の成績を知ることも参考になると考えたが、今回は省略した。

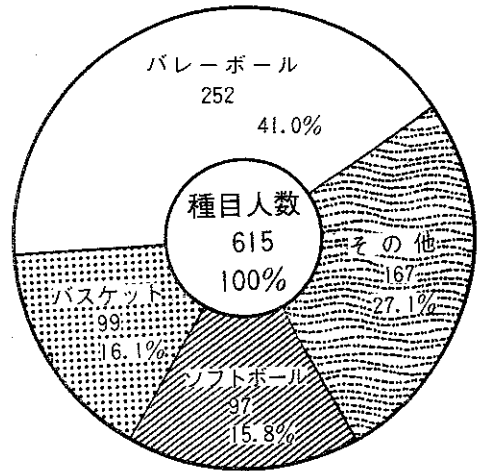
2 高校時代校内試合に選手として出場した競技種目

クラス	種目 K	陸上競技	体操競技	徒歩	バレーボ	バスケット	ソフト	ハンドボ	バトミン	テニス	卓球	水泳	剣道	弓道	山岳	無出場数
		保A ₂	55	8	—	1	28	9	4	1	—	4	8	1	—	—
保B ₂	55	2	—	—	19	5	13	6	—	4	4	—	—	—	—	31
保C ₂	56	7	2	—	17	3	8	2	—	—	1	1	—	—	—	29
国 ₂	97	10	—	—	44	22	22	3	—	2	9	10	—	—	—	35
保A ₁	52	3	—	3	17	8	9	3	—	—	2	6	—	—	—	22
保B ₁	52	7	—	—	26	14	9	4	1	—	4	2	—	—	—	14
保C ₁	51	10	—	2	29	9	10	4	—	3	6	3	—	—	—	14
国 ₁	59	7	—	1	27	13	7	4	—	1	6	2	—	—	—	26
初 ₁	88	3	—	—	45	16	15	9	—	—	6	5	1	—	—	26
計	565	57	2	6	252	99	97	37	1	14	46	3	1			217 615

第5表 高校時代対外試合に出場した競技種目の比率



第6表 高校時代校内試合に選手として出場した競技種目の比率



1人で2種目の選手として出場している学生も数名おるので競技種目の数と出場者の総数とは多少増減がある(第5表)陸上競技は、リレーが最も多い。バレーボールが断然多い。(別表)優秀な技術をもっておりながらその競技試合がないため、記入なき学生もあることが伺われる。

3 自分が特に好きな競技種目

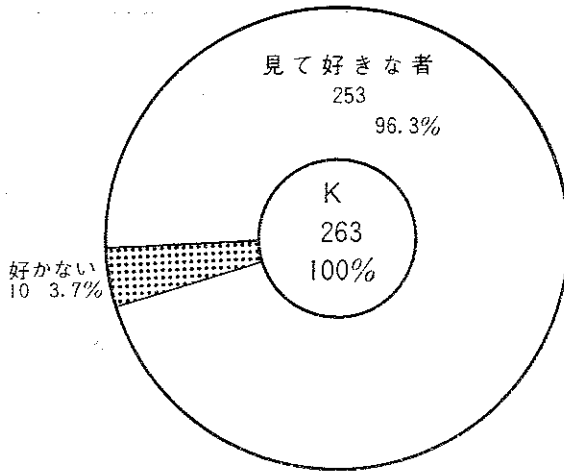
(見て好きな競技種目)

昭和42年度は省略したが、やはり実施した方がよかった。

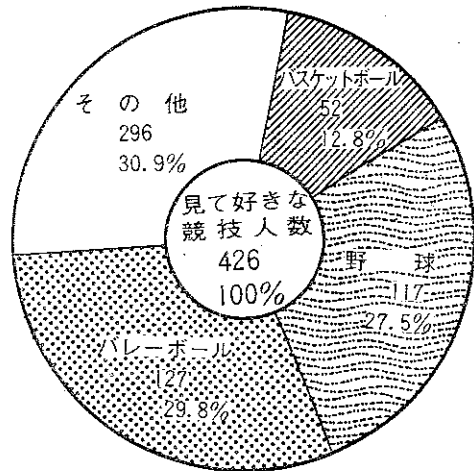
クラス	種目	陸上競技	体操競技	ダンス	バレーボール	バスケット	ソフトボール	バトミントン	ハンドボール	サッカー	ラグビー	テニス	卓球	野球	水泳	弓道	剣道	相撲	スキースケート	重量挙げ	プロボクシング	プロレスリング	全スポーツ	なし
		保A ₂	55	—	5	—	37	14	—	1	—	2	—	3	2	19	5	—	1	—	—	1	1	—
保B ₂	55	—	5	1	20	8	1	—	2	3	—	3	—	33	7	1	1	—	—	—	1	1	5	0
保C ₂	56	—	12	1	21	7	—	—	—	—	—	—	—	23	4	—	—	4	—	—	—	2	—	3
国 ₂	97	2	20	—	49	23	2	—	1	—	1	3	5	42	14	—	—	3	1	—	—	1	—	3
計	263	2	42	2	127	52	3	1	3	5	1	9	7	117	30	1	2	7	1	1	2	4	7	10

1人で何種目も書いたので調査人員と競技種目とは必ずしも一致しない。

第7表 見て好きな者好でない者の比率



第8表 見て好きな競技種目の比率



スポーツを見て好きな者が大多数であるが、中にはあまり好きでない者もある。(第7表)

体操競技ではマット運動が多く、次に徒手体操である。

野球では高校野球が多く、85%位で一般野球やプロ野球が多く、85%位で一般野球やプロ野球は予想外に少ない。

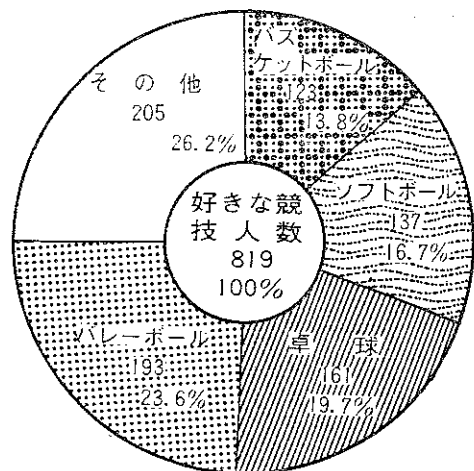
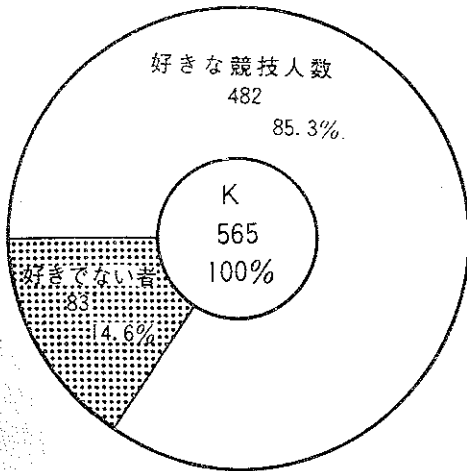
見て好きでやる運動とは必ずしも一致しない。(第8表)

次は自分でやって好きな競技種目

クラス	種目 K	陸上競技						体操競技					ダンス	バレーボール	バスケット	ソフトボール	バトミントン	ハンドボール	テニス	卓球	球技	水泳	弓道	剣道	護身術	合気道	なし	
		短距離	走巾跳	走高跳	ハードル	マラソン	縄跳	徒手	器械	マット	鉄棒	平均台																
保A ₂	55	—	—	—	—	1	—	1	—	1	—	—	22	11	3	4	—	6	21	1	2	—	1	—	—	—	—	6
保B ₂	55	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	15	11	6	2	1	3	12	—	3	1	—	—	—	—	—	11
保C ₂	56	2	—	—	—	—	—	1	1	2	—	1	3	19	5	5	—	—	3	8	—	2	—	—	1	—	18	
国 ₂	97	—	1	—	—	—	—	1	1	2	1	—	27	19	10	13	3	12	28	—	6	—	—	—	—	—	18	
保A ₁	52	—	1	1	—	—	1	—	—	—	—	—	19	13	9	10	2	4	14	—	4	—	—	—	—	—	6	
保B ₁	52	—	1	—	—	4	—	1	—	—	—	1	1	20	20	5	6	—	6	15	—	1	—	—	—	—	3	
保C ₁	51	1	—	1	1	1	—	3	—	3	—	—	1	18	11	1	5	1	7	20	—	4	—	—	—	—	5	
国 ₁	59	1	1	1	—	1	—	—	—	2	—	—	3	16	14	1	2	—	5	16	—	2	—	—	—	1	9	
初 ₁	88	2	1	1	—	2	—	1	—	1	—	—	3	37	19	16	4	—	9	27	—	4	—	1	—	—	7	
計	565	6	5	4	1	9	1	10	2	11	1	2	11	193	123	137	46	7	55	161	1	27	2	2	1	1	83	

第9表 自分がやって好きな者好きでない者の比率

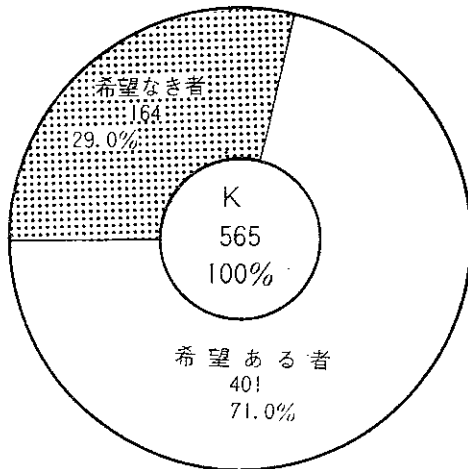
第10表 自分がやって好きな者の競技種目の比率



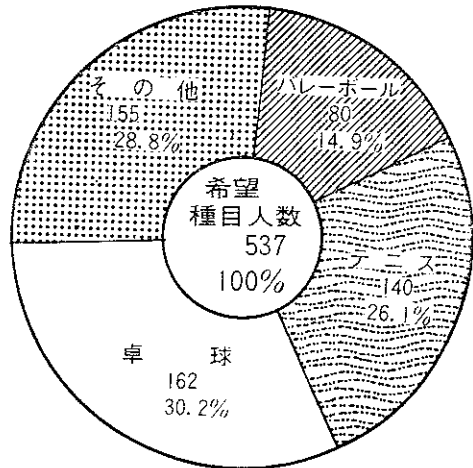
4. 大学入学後特に練習したい競技種目

種目 クラス	陸上競技		体操競技			ダンス	バレーボール	バスケット	ソフトボール	バドミントン	テニス	卓球	水泳	弓道	洋弓	剣道	護身術	合気道	ボート	ヨット	山岳	何でも	なし	
	ハードル	その他	徒手	マット	鉄棒																			
保A ₂	55	—	1	—	2	—	6	5	—	—	15	14	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15
保B ₂	55	—	2	1	1	—	9	6	2	—	9	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20
保C ₂	56	—	1	—	—	2	10	2	2	—	15	18	4	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	15
国 ₂	97	—	1	—	2	2	1	9	6	4	1	15	23	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	46
保A ₁	52	—	—	—	—	—	8	1	3	5	9	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17
保B ₁	52	—	—	—	—	1	6	5	—	5	16	22	3	5	—	1	—	1	—	—	—	—	—	8
保C ₁	51	1	—	3	2	—	2	13	5	1	12	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9
国 ₁	59	—	—	—	—	—	5	6	1	6	11	15	3	1	—	—	—	1	—	—	1	—	1	19
初 ₁	88	—	—	—	—	—	14	9	4	11	38	21	4	4	—	—	—	—	—	1	—	—	1	15
計	565	1	5	4	7	2	6	80	45	17	29	140	162	18	11	1	2	1	2	1	1	—	2	164

第11表 練習したい者、希望なき者の比率



第12表 練習したい競技種目の比



学生を大学入学後正課、課外を問わず体育スポーツに興味を持たせ自主的にトレーニングするようになることは体育指導上重要な指導条件の一つである。

この点からしても本調査の実施が意義づけられるものであることが証明される。

3の「自分が見て好きな競技種目」と「自分が自からやってみて好きな競技種目」4の「大学入

学後特に練習したい競技種目」の3項目を比較研究すると色々なことが発見される。

その一つは「見て好きな競技」が必ずしも「自分がやってみて好きでない」又、「好きな競技でも大学入学後練習しない」ということである。

スポーツ自体に自分がやって始めて興味が生まれてくるものと見ておる方が面白いと感ずるものとに分れる。

明治の末期までは日本のスポーツは、武道、相撲、水泳、ボート等位であった。したがってこの時代に「みて好きな競技」としては、日本古来の大相撲位に過ぎなかった。

大正の初めより今日に至るまで欧米の各スポーツが輸入されて来たので「みて好きな競技」も「自分自身が自からやって好きな競技」も時代と共に変って来たことが証明される。

ゲームの連続性があり、ルールが複雑し、団体的なスポーツが愛好されるように変っておる。

5 高校時代学友会の役員

1967年度に本項目を追加した。従って1966年度は記入してない。

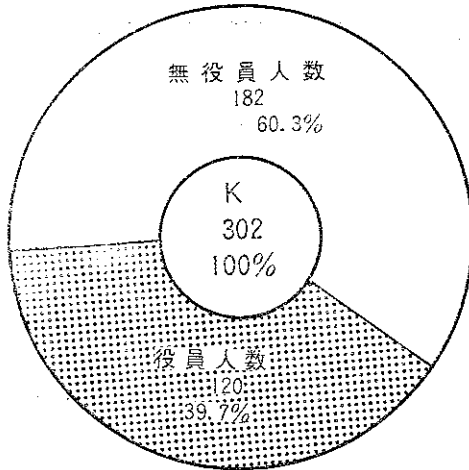
学友会とせずに学校のあらゆる役員とした方がよかった。実際は学校の役員として記入している。

役員名 クラス K	委員 長	クラス 運営委員	学 習 係	風 紀 係	文 化 係	図 書 係	会 計 係	保 健 体 育 係	美 化 係	家 庭 ク ラ ブ 係	視 覚 係	H ・ R 委 員	厚 生 係	銀 行 係	な し	
保A 1	52	—	—	2	1	1	2	2	1	—	—	—	—	—	—	43
保B 1	52	—	11	4	4	—	4	—	3	—	—	—	1	3	—	22
保C 1	51	1	3	—	—	—	1	—	2	2	—	—	—	—	—	42
国 1	59	2	6	—	4	—	3	4	5	5	—	—	—	—	—	30
初 1	88	2	—	1	14	—	2	4	10	—	3	1	6	—	—	45
計	302	5	20	5	24	1	11	10	22	8	3	1	6	1	3	182

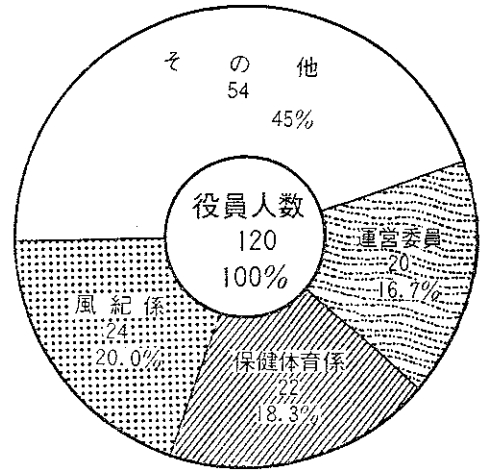
1人で2役も3役もしておった者はその中で重要な分だけを取りあげた。1人1役にした。この統計は役員になった者となっていない者との数が明らかになるようにした。

役員名が学校においてまちまちであるから名前がちがっていても内容の同じものは一つにまとめた。

第13表 役員した者、しない者の比率



第14表 役員の内訳の比率



大学に入学するほどの学生は高校時代においても一般学生よりの信頼があり、成績も上位にあることが伺われる。

役員に選出された学生数は各クラスにおいて多少増減はあるが全体を平均すると過半数に達している。(第13表)

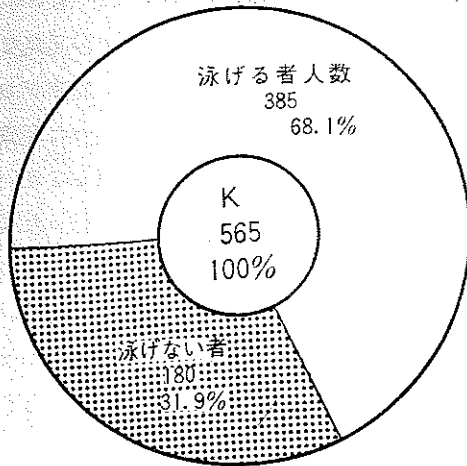
6 水泳において何米位自由に何にも持たずに泳げるか

1966年度においてはこの項目に「水におぼれかけている人を見て飛び込んで助ける自信があるか」の条文を入れたのであるが大體100米位以上泳げる学生は助ける自信があるように思ったので1967年度においてはこれを除外した。

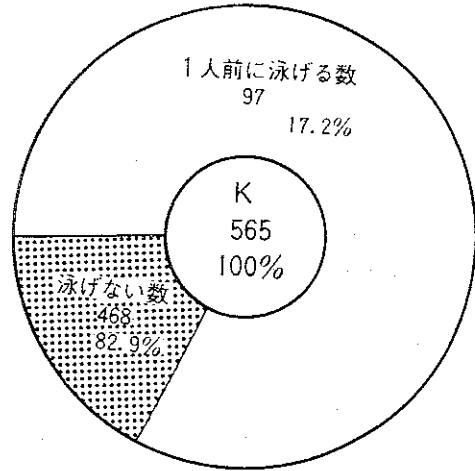
保育科初等教育科の学生は今後少なくとも50米以上位は泳げなくては社会に出て困ることが多い。又人工呼吸法も大いに必要である。「人工呼吸法が出来るか」という項目を追加することも必要である。最近事故の多いのは、交通事故、水の事故、山の事故である。

クラス	項目 K	泳げる距離				泳げない
		100米以上	50米以上	25米以上	24米以下	
保A ₂	55	6	10	5	16	18
保B ₂	55	3	3	3	25	21
保C ₂	56	1	10	4	17	24
国 ₂	97	9	9	11	31	37
保A ₁	52	1	4	8	24	15
保B ₁	52	1	7	8	21	15
保C ₁	51	3	9	8	18	13
国 ₁	59	2	4	9	24	20
初 ₁	88	6	9	10	46	17
計	565	32	65	66	222	180

第15表 泳げる者、泳げない者の比率



第16表 1人前泳げる者の有無の比率



全ぜん泳げない即ちカナヅチの学生が3人に1人とは予想外であった。

1人前泳げると言えることはまあ50米以上でないと言えない。

水に溺れる者を目の前に見て飛び込んで助けるだけの勇気と自信をつけたいものである。

7 盲腸の手術をしたか

しない した (年 前 回)

健康のパロメーターは盲腸にありと言っても過言ではない。それ程盲腸は大切なものであることを私は過去12年間の研究実験によって実証することが出来る。

現代医学において盲腸は有害無益のものとして簡単に切除されることが多いのは洵に遺憾なことである。

最近心ある医師は盲腸は大切なものであるから手術しないで何とかして治したいと色々な方面から研究されていると聞く。力強いことである。最近米国においては癌の原因が盲腸にあるのではないかと各方面から研究している。その一例として過去10年間の癌患者を調査した処75%が盲腸を手術しており、残りの25%は慢性盲腸であったことを発表している。

陰陽霊法の創始者奥原先生は盲腸の反射が慢性の場合は十二指腸、胆嚢、肝臓、胃等に盲腸を頂点として直角三角形の二辺のあたりに、急性の場合は臍の上を通過しての内臓即ち三角形の斜辺の通りに影響することを発見されている。この原理に基きお救いを受けて治った人々が多い。私も過去12年間に2,253人の新しい患者のお救いをして来た、その内、盲腸の反射によって上記の病気を起しあらゆる治療をし治らなかった人が数十名に及び、盲腸のお救いをしたため治って喜んでおられる。一例を挙げれば、27才の男子青年である。彼は肝臓が悪いため、10カ月余、K病院に入院させられた。病状はあまりかンぱしくなく、食欲がなく、肩がこり、身体がだるくなるので悲観していた。その中見舞に来た人が「お医者さんで分からない病気が分かり、不思議に難病でも治る処があるか

ら一度だまされたと思って行って見よ」と聞いたので病院をぬけ出して来た。と、霊器によって奥原路の観察をすると、ひどい胃下垂、慢性盲腸、甲状腺、左副腎、肝臓の機能低下、肝臓の悪いのは慢性盲腸よりの反射であることが分った。一定のお救をして終った。本人は何だか自分の元気な時のような身体になったようだと言っていて帰った。翌日早く来て、昨夜はぐっすり休まれ、食事がおいしかった、何だか前途に光明が出たと喜ばれた。1週間毎日お救いした所あれだけ悪かった肝臓が出ない、元気が出たので退院しながら1カ月位お救いを続けた。後は家庭で自分自身で治しなさいと言って霊器を与えてやった。半歳位たって友達4人とえびの高原にレクリエーションに行った所私が一番元気で友達がビックリしていたとか又結婚問題も今まで再三起ったが身体が弱いので御破算になっていた。今は元気になったので立派なお嫁さんをもらって分家しておるとのことである。その他盲腸よりの反射によって現代医学で治らなかった病気が治って元気に活躍されておる人々の喜びを聞く毎に我々人間の機能、生命、病気等に現代医学や科学で分からないX、Yのあることを考えさせられる。盲腸の反射もその一つである。

盲腸からは大切なホルモンを出す聞く

臓器の癒着を除くためのホルモン

小腸の吸収力を増大するホルモン

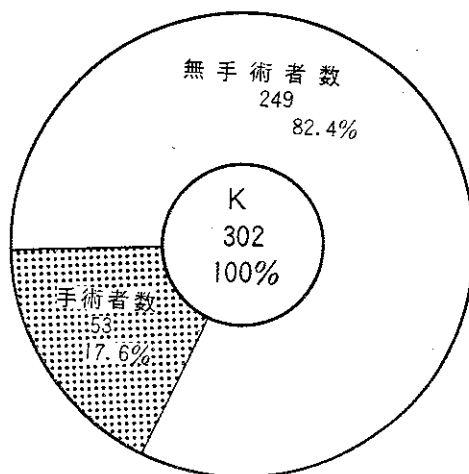
全身の自律神経のアンバランスを取るためのホルモン

盲腸が弱くて癒着していない人は殆んどない。

1967年度より調査に本項を追加した。

クラス	項目	手術者		手術しな
		2回	1回	
保A ₁	52	—	4	48
保B ₁	52	—	10	42
保C ₁	51	—	7	44
国 ₁	59	—	14	45
初 ₁	88	2	16	70
計	302	2	51	249

第17表 盲腸手術の有無の比率



盲腸手術者が20才前後までに20%近くあることは悲しむべきことである。

手術はしないが慢性盲腸で機能の低下している者は予想外多いと思う。これがため癒着して便秘とか腰痛、脚がだるい、疲労し易い等の自覚症状を起している学生があることが想像される。

健康状態について各種の項目を挙げて詳細に調査することも意義あることと思う。

8 自分の持病 ない。 ある（ ）

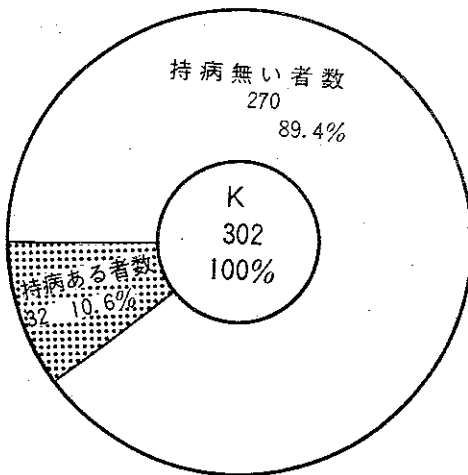
1967年度より実施した。1966年度より実施したらよかったと思う。

異なった病状があまりに多いので同じ様なものは一つに挙げた。

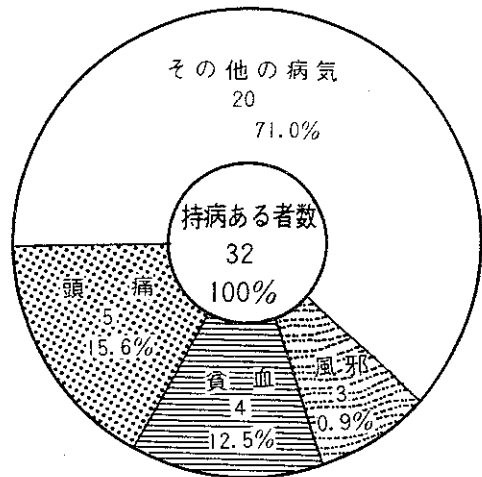
病名 クラス	病名																
	胃腸が弱い	頭痛	貧血	神経痛	風邪を引き易い	盲腸が時々痛む	アレルギー湿疹	脚が時々痛む	中耳炎	腎臓	湿疹が出る	腰痛	扁桃腺がはれる	脚気	皮膚が弱い	水虫	無い者
保A ₁	52	2	2	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	44
保B ₁	52	—	1	1	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	45
保C ₁	51	—	—	1	—	1	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	47
国 ₁	59	—	2	1	—	—	—	—	1	1	2	1	—	—	—	—	51
初 ₁	88	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	2	1	1	1	83
計	302	2	5	4	2	3	2	1	1	2	2	1	2	1	1	1	270

予想外持病が少ないことは喜ぶべきことである。頭痛，貧血の多いのは予想通りであった。

第18表 持病の有無の比率



第19表 持病の内訳比率

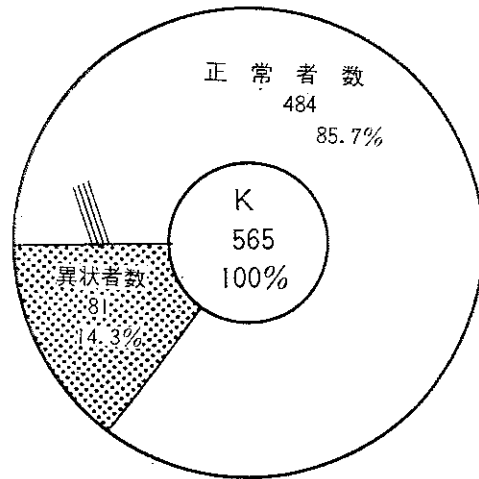


9 月経は正常にあるか

ある。 ない (こういうように正常でない)

クラス	項目 K	正	異
		常	状
保A ₂	55	45	10
保B ₂	55	46	9
保C ₂	56	47	9
国 ₂	97	78	19
保A ₁	52	44	8
保B ₁	52	44	8
保C ₁	51	46	5
国 ₁	59	56	3
初 ₁	88	78	10
計	565	484	81

第20表 月経正否の比率



月経は病気ではない。

略した。

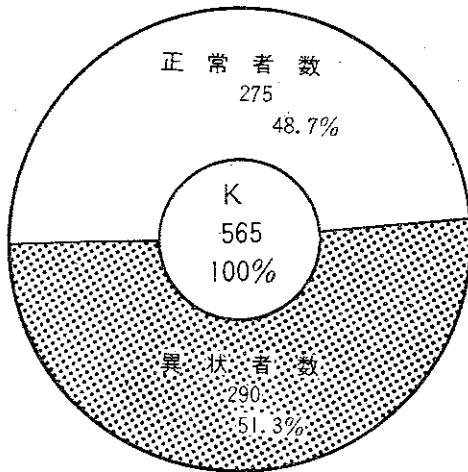
異状ある場合の状況を記入していない者が多いので具体的な事は省略した。

大体次の10, 月経の初まる前後, 又は月経中心身に異状はないか, の状況と大同小異である。

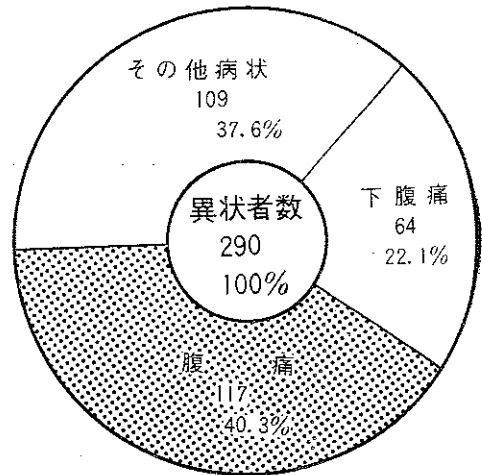
10. 月経の始まる前後, 又は月経中心身に異状はないか。 ない。ある。(こういうようにある)

クラス	病名 K	腹	腰	下腹	腹いと	貧	目	気が	頭	足と	身	腹	ケ	気	背	悪	ア	一	脚	胃	正
		痛	痛	が痛い	と腰が痛	血	まい	がイライラする	痛がして	と腰がダル	体がダル	痛ハキ	が落ちつ	中が痛む	いと思	タリ	日前に必	がだるい	の痛い	ころ	常
保A ₂	55	16	—	5	2	—	2	1	—	—	—	1	—	1	1	—	1	—	—	—	25
保B ₂	55	10	3	17	—	—	—	3	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	20
保C ₂	56	5	4	21	—	—	5	3	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	16
国 ₂	97	21	8	8	16	2	—	—	6	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	33
保A ₁	52	10	6	—	6	—	—	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	26
保B ₁	52	11	4	—	2	—	—	4	2	2	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	26
保C ₁	51	10	1	—	2	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	36
国 ₁	59	18	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	38
初 ₁	88	16	3	12	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	55
計	565	117	29	64	29	2	7	14	12	2	1	7	1	1	1	1	1	1	1	1	275

第21表 月経の始まる前後、又は月経中異状有無の内訳比率



第22表 月経中異状の有無内訳比率



月経と健康とは深い関係がある。

造化の神は毎月月経の始まる前、生活に差支えない範囲内において何等かの方法をもって、月経の始まることを知らされるものである。その方法の程度が大になり、生活に支障を来す時は病的なものである。

本調査においては、月経の異状程度が不明であるが、学校を休む程苦痛はないようであるから、自然の要求かも知れない。

正常者と異状者の数が大体半数宛である。(第21表) 腹痛や下腹部の痛みがあるのは生理的に当然かも知れない。

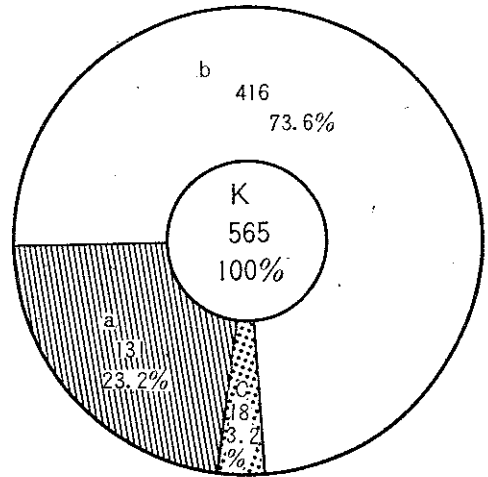
11. 月経中

- a. 相当強い運動をしても異状ない。
- b. 軽度の運動なら異状ない。
- c. 軽度運動でもこんなように異状がある。

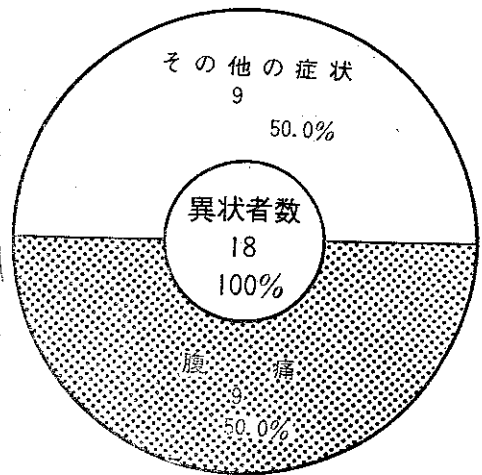
()

項目 クラス	a	b	c	異状ある症状					
				腹痛	腹痛が多くなる 量	貧血	量が多くなる	気分が悪くなる	目まがいが出る
保A ₂	55	12	43	—	—	—	—	—	—
保B ₂	55	20	35	—	—	—	—	—	—
保C ₂	56	14	42	—	—	—	—	—	—
国 ₂	97	17	76	4	2	—	—	1	1
保A ₁	52	7	44	1	1	—	—	—	—
保B ₁	52	12	36	4	2	—	—	2	—
保C ₁	51	11	39	1	1	—	—	—	—
国 ₁	59	9	45	5	2	1	1	1	—
初 ₁	88	29	56	3	1	1	—	1	—
計	565	131	416	18	9	2	1	4	1

第23表 運動中a、b、cの比率



第24表 運動中の異状の内訳の比率



12. 自転車に自由に乘れるか。

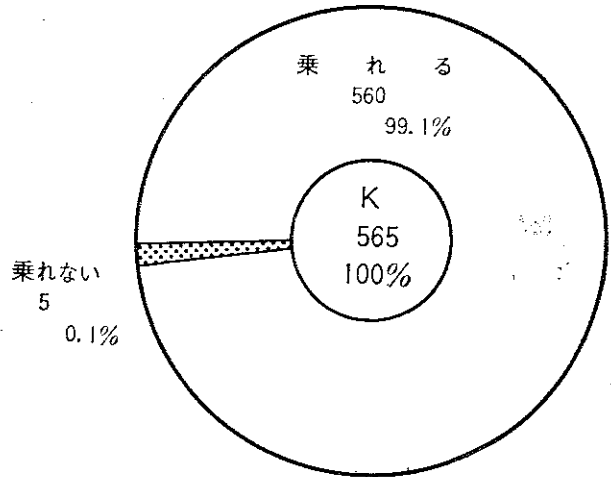
乗れる。 乗れない。

13. 自動車の免許状を持っているか。

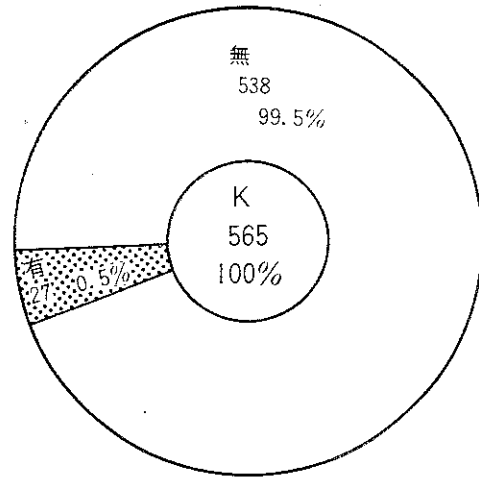
有 無

クラス	項目	自転車		自動車	
		乗れる	乗れない	有	無
保A ₂	55	55	—	4	51
保B ₂	55	55	—	1	54
保C ₂	56	56	—	4	52
国 ₂	97	95	2	3	94
保A ₁	52	51	1	4	48
保B ₁	52	52	—	—	52
保C ₁	51	50	1	3	48
国 ₁	59	58	1	4	55
初 ₁	88	88	—	4	84
計	565	560	5	27	538

第25表 自転車に乗れる者の比率



第26表 自動車運転免許の有無の比率



1930年度頃までは全国的に女性の自転車に乗れる者は少なかった。山口県萩高女においては全校生徒の0.5%位しか乗れる者はなかった。当時女性が自転車に乗ると妊娠しにくい上に女性美を破壊するものであると誤った考え方があったので奨励されなかった。しかるに時代の変化に従って社会的要求により今日では殆んど乗れない者はないようになった。当学においても99.1%が乗れる、乗れない者が僅か0.1%しかない(第25表)

自動車の免許状を持っておる者が565人の中、27人全体の0.5%で予想外多い。今後は段々多くなると思われる。(第26表)

む す び

体育指指資料の必要性から2ケ年間実態調査を実施してきたが、実施してみると、あれもやりたい、これもやりたいと次々に意欲が盛りあがってきた。漸次理想的調査にしたいものである。

調査の比較対象になる資料が発見出来ないのが遺憾である。

ただ水泳について、県が調査した資料や、以前私が奉職していた女学校において調査した自転車に乗れるか、乗れないかの項目位である。

月経についての発生的実態調査の資料はあるが、直接体育指導には必要性が少ないので調査の対象にはしなかった。

本調査実施に当り、本学の関係事務職員各位がプリント作成にご協力賜わったことを深く感謝する次第である。(本学講師)